

3. ルプラック（トラセミド）

- ① ルプラックは長時間作用型で、かつ抗アルドステロン作用を有するループ利尿剤であるが、トータルとしてはラシックスに匹敵するパワーを持っている。
ラシックス20mg+アルダクトン25mg＝ルプラック4mg
ラシックス40mg+アルダクトン25mg＝ルプラック8mg
ラシックス40mg ＝ ルプラック8mg
- ② 作用時間は6～8時間で、時間をかけて作用する。
ゆっくり作用する点がメリットである。
作用が緩徐である点から、とくに高齢者心不全例、腎機能低下例、電解質異常による不整脈例に有用である。
- ③ ルプラックはKを保持する抗アルドステロン作用も併せ持っているため、他のループ利尿剤に比べて低K血症をはじめとする電解質異常を来たす頻度が少ない。
低K血症の発生頻度
ラシックス 1.59% (0.1～5%未満)
ダイアート 1.26%
ルプラック 0.28%
- ④ ルプラックはラシックスと比較して総死亡、心臓死が有意に低い傾向にある。
- ⑤ ルプラックはバイオアベラビリティが高く、安定した利尿効果が得られるため、慢性心不全患者においてダイアートやラシックスでどうしてもとれない下腿浮腫や咳、呼吸困難の症状を目標に使用できる。
増悪したときのみルプラックを頓服で服用させるのも有効である。
- ⑥ ルプラックは腎機能の悪化をもたらさないのみならず、その改善に寄与するCKD治療薬でもある。高齢者の高血圧性心不全において、ラシックス+アルダクトンなどでBUN、クレアチニン値が上昇する例では、ルプラックに変更することで腎機能が徐々に改善し、血清カリウム値も安定化することを期待できる。
- ⑦ 降圧剤としてみた場合、サイアザイド利尿剤と比較しても、eGFR<40ml/分のCKD患者においても血圧を低下させる能力は減弱しない。
- ⑧ 心不全病態下では、循環血流量を増大して心拍出量を維持しようとするため静脈圧の上昇、血管外への水分の漏出により体液貯留（浮腫）を来たす。それによる下腿浮腫や呼吸困難などの心不全症状を改善するために、利尿剤は必須の薬物である。